



ミッションの遂行状況の評価（令和3年度）			
<p>団体における評価</p>	<p>長引く新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、引き続き厳しい状況が続いている。航空業界において、国内線旅客は徐々に回復基調で推移したが、国際線旅客は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。航空貨物輸送は世界的な貨物需要の高まりや海上輸送の混雑等による航空へのシフト等から、国際貨物を中心に好調に推移した。</p> <p>当北九州空港においても国内線では前年同期比で増加したものの、コロナ禍前の令和元年度の水準には遠く、国際線は前期に続き年間を通じ全て運休した。</p> <p>国内航空貨物は、運航便数が前期より回復したことを受け年間取扱量は前年同期比で増加し、国際航空貨物は定期路線が11月から週4往復に増便されたこと等を受け、国内・国際航空貨物の年間総取扱量は2期連続で過去最高となった。</p> <p>年間ターミナルビル来館者は約85万人と前年度と比較して回復し、また、当期から北九州空港駐車場事業を開始した。これらの状況の中、路線維持や空港機能の維持を図るため、行政や団体と連携を取り、既存航空会社やテナント等への支援を行うとともに、空港利用者に安全に安心して当空港ターミナルビルを利用いただくために引き続き感染拡大防止に努めた。</p>	<p>市の評価</p>	<p>航空会社を取り巻く厳しい状況は令和2年度から引き続いており、就航路線（国内・国際）の目標未達は致し方ない面もあると考慮できる。</p> <p>一方で、貨物取扱量は旺盛な貨物需要を受け21,819トンと、目標を上回ることはできなかったものの前年度比42%増で、昨年度に引き続き大幅な増加となった。来館者数についても、昨年度比44%増となり、目標値を上回っている。</p> <p>本市が目指す物流拠点化空港の実施に向けて、同社では第2国際貨物上屋の整備、R6.4就航予定のヤマト・JAL貨物定期便の受け入れなど、連携した取組を進めている。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容（案）</p>	<p>【航空旅客】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内線の旅客需要が新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復しつつあることから、就航航空会社や行政及び団体と連携をとり、PRやキャンペーンを実施する等の集客対策を進める。</li> <li>国際線は路線再開時を見据え政府方針や出入国条件等を注視し路線再開時に遅滞なく対応できるよう準備を進める。</li> <li>国内・国際線のビジネス需要についてWEB会議等の普及によるコロナ禍以前までの回復が見込めない可能性があることから、今後の動向に注力する。</li> </ul> <p>【航空貨物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拡大する国際貨物取扱量に対応するため、地元自治体と連携し建設中の、国際貨物上屋の増設を確実に実施し、運営のあり方についても引き続き検討を進める。</li> <li>国際航空貨物定期路線の安定的な運航と国際貨物チャーター便の運航を支援するため、老朽化した大型地上支援機材の更新を行う。</li> <li>今後拡大が見込まれる国内及び国際貨物に対応できるよう貨物施設の増強について検討する。</li> <li>滑走路3千メートルへの延伸について地元自治体と連携し、早期実現に向けて国への要望活動を行う。</li> </ul> <p>【新型コロナウイルス感染症への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来館者に安全に、安心して当空港ターミナルビルを利用いただくため、引き続き館内での感染対策を徹底し、感染拡大防止に努める。</li> </ul> <p>【各種イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ターミナルビル来館者に北九州空港に親しんでいただくとともに、旅客増につながるよう密集回避・感染対策を徹底した上で再開する。</li> </ul> <p>【入居事業者への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き必要な支援・対策を実施する。</li> </ul> <p>【駐車場事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空港ビルと駐車場の一体運営により利用者の利便性向上及び経営効率化を図り、空港全体の利用者増と会社の収支向上に繋げる。</li> </ul> <p>【経営環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、引き続き厳しい状況であるため、更なる経費削減に努めるとともに、広告等収益増に繋がる取組みを更に強化する。</li> </ul>	<p>団体への改善指導内容（案）</p>	<p>現時点では北九州空港の国内線・国際線の回復については不透明であるが、一部の空港では国際線の就航が再開する等、明るい兆しは見え始めている。引き続き、同社へ施設内における感染拡大予防に向けた取組を求めながら、就航路線の維持及び新型コロナウイルス収束時期の需要回復に向けた集客へ取り組む。</p> <p>また、新たな国際貨物上屋増設を通じて、貨物取扱量の更なる増加に取り組むとともに、貨物施設の効率的な運営に向けた体制・手法の整備に取り組む。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況	
見直しの分類	－
<p>コロナ禍においても健全な経営を維持するべく、施設内における感染拡大防止に努めつつ、路線の維持・利用者数の増加に向けた取組みを進めた。</p>	